

1 計画の目的

- 本市を取り巻く現状を踏まえて、各公共交通の利用実態、市民の生活行動パターン・ニーズを適切に把握・診断し、地域公共交通の在り方を検討します。
- 本市が目指す地域公共交通の在り方を検討した結果を踏まえ、安心して住み続けられる持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指し、持続可能な公共交通サービスの姿を提示する「水俣市地域公共交通計画（マスタープラン）」の策定を目的とします。

2 計画の対象区域

- 計画の対象区域は、水俣市全域と定めます。地域間幹線バスなどの市町をまたぐ公共交通サービスは周辺市町の方針との整合を図って取り組み方針を示します。



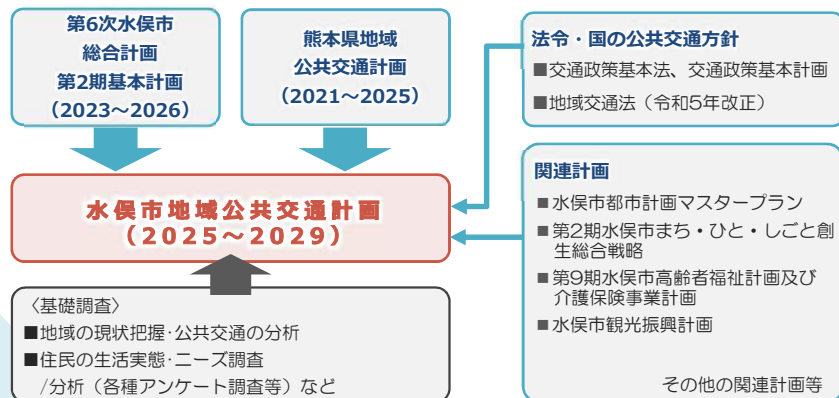
図 計画区域

3 計画の期間

- 計画の対象期間は、社会・経済状況の変化に応じた公共交通サービスの改善を図る期間を考慮したうえで、令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度）の5箇年とします。

4 計画の位置づけ

- 本計画は、本市の最上位計画である「第6次水俣市総合計画第2期基本計画」に基づき、同計画の将来像『みんなが幸せを感じ 笑顔あふれる元気なまち 水俣』の実現を見据えた方針等を定めます。
- 「水俣市まち・ひと・しごと創生総合戦略」や「第9期水俣市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画」等の地域振興、保健福祉、環境等の各種計画と連携しながら、利便性の高い移動環境の形成を推進していきます。



5 課題まとめ

課題① 交通弱者に配慮した移動手段の確保・維持

目標①

- 令和27年には人口が15,573人まで減少する。
- 高齢者の約5割が運転免許を保有していない。
- 「将来運転ができなくなった時が不安」と感じる方が存在する。
- 通勤・通学、買い物、通院は市内の施設を利用する方が多い。
- 毎年100人以上の免許の自主返納が確認され、交通弱者の増加が予想される。
- 水俣市社会福祉協議会が実施している「移動・外出支援」にて郊外部及び市街地部に利用される方が存在している。

課題② 市民ニーズに沿ったみなくるバスの運行内容の改善

目標②

- 改善内容は「外出時間に合わせた運行ダイヤの見直し（34.2%）」が最多となる。
- 不便と感じた内容は「本数が少ない（79.9%）」が最多となる。
- 市の財政負担額は燃料費等の高騰により増加傾向である。

課題③ 利用実態に応じた乗合タクシーの運行内容の改善

目標③

- 高齢者のデマンドの利用意向は「利用したい（64.6%）」が多い。
- デマンド交通に求めるサービス水準は「わかりやすい電話対応（配車予約など）（61.9%）」が最も高く、次いで「目的地の充実（病院、スーパー等）（55.7%）」である。
- 利用料金は「300円台」が最も多い。
- フリー乗降区間を求めている方が存在する。

課題④ 新水俣駅及び水俣駅での交通結節点の強化

目標④

- 公共交通の維持・利用向上のために効果が高い取組みとして、「鉄道・バス等の乗り継ぎしやすい運行の改善」の意見が多い。

課題⑤ 市民や来訪者（海外含む）に向けた公共交通の利用促進

目標⑤

- 免許返納後に公共交通機関を利用できず、外出できない方が存在。
- バス案内所にインフォメーション等を行い、市民が利点を感じる場所が良い。
- 県内の外国人居住者の増加に伴い、市内への誘客を促進するため、水俣駅および新水俣駅における二次交通の強化が必要である。

目標 1：誰もが利用しやすい地域間幹線交通の確保・維持

目標 2：市民ニーズに対応した地域公共交通の効率化

目標 3：交通拠点の整備・機能強化

目標 4：市民・事業者・行政との連携強化による持続可能な公共交通

6 基本的な方針及び計画目標

基本的な方針：市民の暮らし及び来訪者の移動を支える公共交通体系の実現



図 将来ネットワーク図

目標 1 誰もが利用しやすい地域間幹線交通の確保・維持

市外への移動需要に対応するため、広域幹線交通の確保・維持や市内公共交通との乗継強化、県・他市町・交通事業者との連携強化を行い、持続可能な広域幹線交通ネットワークの活性化を目指します。

目標 2 市民ニーズに対応した地域公共交通の効率化

交通事業者と協議を繰り返しながら地域内公共交通の効率化を図り、市民ニーズに対応した持続可能な地域内公共交通サービスの提供を目指します。

目標 3 交通拠点の整備・機能強化

市民や来訪者が市内を運行する公共交通を有効に活用できるように、市内主要な交通拠点の整備及び機能強化を図り、公共交通の利便性向上を目指します。

目標 4 市民・事業者・行政との連携強化による持続可能な公共交通

市内の商業・医療・観光等の施設事業者や水俣市社会福祉協議会等の他分野の関係者団体、各交通事業者、行政などの多様な関係者、そして市民と連携し、様々な媒体を活用した公共交通サービスの情報発信やお出かけ先でのイベントを含めた利用促進に取組み、市民の外出促進を目指します。

7 実施事業の体系

●本計画に定めた目標を達成するために行う8つの事業を定め、本市の持続可能な公共交通サービスの持続・活性化に向けて取組みを進めていきます。

事業 1 広域幹線交通の利用促進

- 鉄道利用者の回復に向けた利用促進
- 肥薩おれんじ鉄道と協力的な誘客事業

■水俣市
■鉄道事業者

事業 2 地域間幹線交通（路線バス）の確保・維持

- 沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進

■水俣市 ■バス事業者
■沿線市町村（水俣市以外）

事業 3 みなくるバスの維持・効率化

- 利用実態に応じた運行内容の効率化
- みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進

■水俣市
■バス事業者

事業 4 乗合タクシーの運行効率化・更なる利便性向上

- 乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し
- オンデマンド運行の導入

■水俣市
■タクシー事業者

事業 5 交通拠点での乗り継ぎ強化

- 水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討
- 水俣駅での二次交通の充実
- 肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化

■水俣市
■バス事業者
■鉄道事業者
■カーシェア事業者

事業 6 市民及び来訪者にとって分かりやすい情報発信

- 水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進
- 交通拠点での公共交通の情報発信

■水俣市 ■鉄道事業者
■水俣MaaSプロジェクト実行委員
■交通事業者 ■観光・商工業者等

事業 7 市内関係者と連携した公共交通の連携促進事業の展開

- 主要な施設での公共交通の情報発信
- みなくるバスを使った乗り方教室の実施
- 交通事業者の人材確保に対する支援

■水俣市
■交通事業者
■バス事業者

事業 8 市民と連携した公共交通の利用促進事業の展開

- 公共交通の利用促進キャンペーンの実施検討
- 水俣高校の学生と連携した公共交通の情報発信企画

■水俣市 ■交通事業者
■水俣MaaSプロジェクト実行委員
■市民 ■水俣高校

8 事業の取り組み内容（1/2）

目標① 誰もが利用しやすい地域間幹線交通の確保・維持

事業1：広域幹線交通の利用促進

取組み1：鉄道利用者の回復に向けた利用促進

- 市内の主要な広域幹線交通である肥薩おれんじ鉄道の利用回復を図るため、水俣ローズフェスタ等の市内の主要なイベント等での鉄道利用の積極的な周知や時刻表の配布等の利用者増加に向けた利用促進に取組みます。

図 時刻表（肥薩おれんじ鉄道）
出典：肥薩おれんじ鉄道(株)

取組み2：肥薩おれんじ鉄道と協力した誘客事業

- コロナウイルスの影響により肥薩おれんじ鉄道の利用者が減少したため、肥薩おれんじ鉄道の利用者の回復に向けて、利用者増加のための誘客事業に取組みます。
- 誘客事業は、肥薩おれんじ鉄道と水俣市が連携を図り、鉄道を利用して市内の主要な観光地である湯の尻温泉や湯の鶴温泉等に訪れていたような誘客事業を検討していきます。



図 道内あちこち列車でぴよん（鉄道網を活用した利用促進企画）
出典：北海道鉄道活性化協議会

事業2：地域間幹線交通（路線バス）の確保・維持

取組み1：沿線市町と連携した地域間幹線交通の利用促進

- 水俣市内を運行する路線バスは水俣市と芦北町を結ぶ路線バス（産交バス）と水俣市と阿久根市を結ぶ路線バス（南国交通）が存在します。
- それぞれの路線バスは水俣市と周辺市町を経由しているため、路線バスの確保・維持に向けて、周辺市町と連携し、各市町の住民に対して、利用を促す取組みを進めます。



▲ 複数の市町村における公共交通マップの作成事例

目標② 市民ニーズに対応した地域公共交通の効率化

事業3：みなくるバスの維持・効率化

取組み1：利用実態に応じた運行内容の効率化

- バス事業者へのヒアリングから運行距離が長い路線では運転手の負担が大きいことが確認されています。
- みなくるバスのサービスの維持に向けて、利用実態に応じた路線縮小やルート変更等を水俣市とバス事業者が協議し、効率的に運行する取組みを進めます。



図 路線図

取組み2：みなくるバスの利用者増加に向けた利用促進

- みなくるバスの確保・維持に向けて、利用者を増加させるために、積極的にみなくるバスの周知等の利用促進に努めます。
- 利用促進については、交通事業者と連携し、みなくるバスの周知活動や時刻表の配布等の利用者増加につながる取組みを検討し、実施します。

図 時刻表（みなくるバス）

事業4：乗合タクシーの運行効率化・更なる利便性向上

取組み1：乗合タクシーの確保・維持に向けた運行内容の見直し

- 令和6年の乗合タクシーの年間便平均利用者は全ての便で2人を下回っており、乗合が成立していません。利用低迷路線のデマンド化（予約型定時定路線）により、運行経費の抑制はできていますが、さらなるデマンド化を推進するなど、タクシー事業者と連携して取組みます。

表 乗合タクシーの便平均利用者数

路線名	運行曜日	便平均利用者数
猿轡線	月～金	1.6人
大迫・牧ノ内線（デマンド）	月	1.2人
市木線	火	0.6人
寺床・栗川線	火	1.1人
小津奈木線（デマンド）	水	1.5人
売店線	水	0.3人
飯口・八ノ塚線（デマンド）	金	1.0人
神川・湯堂線（デマンド）	金	1.8人

取組み2：オンデマンド運行の導入

- 現在、乗合タクシーの運行形態は定時定路線型運行と予約型定時定路線の2種類の運行形態で運行しています。今後、更なる高齢化により、自宅から乗り場までの移動が困難と感じる方の増加が予想されるため、乗合タクシーの利便性向上を図るために自宅から目的地までの結ぶオンデマンド交通を導入します。
- 導入に関しては、主体であるタクシー事業者やオンデマンド導入エリアの住民と協議しながら進めています。



図 実証運行チラシ



図 実証運行の様子

8 事業の取組み内容（2/2）

目標③ 交通拠点の整備・機能強化

事業5：交通拠点での乗り継ぎ強化

取組み1：水俣市役所への路線バスのバス停の移設検討

- 水俣市役所は敷地内にみなくるバスの乗り場が設置されており、みなくるバスの全路線が経由しているため、みなくるバスの乗継拠点としての機能を有しています。
- 水俣市役所の更なる乗継機能の向上（ハブ化）させるために、路線バスのバス停を市役所敷地内に移設するなどバス事業者と慎重に協議を行い、接続強化につながる取組みを検討します。



図 バス停位置図

取組み2：水俣駅での二次交通の充実

- 水俣市を訪れる観光客の多くは自家用車で移動しており、公共交通の利用は少ない状況です。さらに、本市の玄関口の一つである水俣駅では二次交通が十分に整備されていないため、水俣駅から観光地等への移動がしづらい状況となっています。
- 水俣駅を利用する鉄道利用者の利便性向上を目的に、関係機関と連携し「カーシェアサービス」の導入を含めた二次交通の充実に取組みます。

取組み3：肥薩おれんじ鉄道とみなくるバスの接続強化

- みなくるバスにて肥薩おれんじ鉄道と20分以内に接続している便の割合は「木白野（茂川）・梅戸港線（40%）」が最も多く、「湯の児線（9%）」が最も少ないため、みなくるバスと鉄道の接続は良いとは言えません。
- 公共交通の利便性向上のため、みなくるバスのダイヤを見直すなど、鉄道と路線バスの接続向上に向けた取組みを進めます。

路線名 (みなくるバス)	接続が 20分超過
木白野 (茂川) ・梅戸港線	60%
大川線	62%
中屋敷 葛彩館線	75%
湯の児線	91%
茂道～頭石・ 招川内線	67%

事業6：市民及び来訪者にとって分かりやすい情報発信

取組み1：水俣MaaS（ミナマース）事業の取組み推進

- 現在水俣MaaSプロジェクトの一環として、移動検索アプリの「my route」が利用できます。今後は市民のみならず来訪者に対しても「my route」の活用促進を積極的に行い、市内公共交通や市内のお出かけ情報を手軽に手に入れられる環境整備の取組みを進めます。



図 my route

取組み2：交通拠点での公共交通の情報発信

- 市内の主要拠点である新水俣駅、水俣駅、水俣市役所における情報発信を強化するため、乗り継ぎに関する情報発信や待合環境の整備を行い、市民や来訪者が公共交通の情報を手軽に入手できる環境を整備していきます。



図 平野交差点バス待合所の事例



図 朝日町観光案内所の事例

目標④ 市民・事業者・行政との連携強化による持続可能な公共交通

事業7：市内関係者と連携した公共交通の連携促進事業の展開

取組み1：主要な施設での公共交通の情報発信

- 市内の主要な買い物施設や医療施設等と連携し、公共交通の時刻表・路線図等を掲示し、市民が様々な場所で公共交通の情報を入手でき、公共交通を利用しやすい環境整備に取り組んでいます。

取組み2：みなくるバスを使った乗り方教室の実施

- 公共交通の利用促進には、市民に対して利用目的を明確に提示することが重要です。実際の利用を想定し、買い物や通院を目的とした「乗り方教室」などを実施することで、市民に公共交通を利用するきっかけを提供する取組みを進めます。



図 お出かけ支援の様子

取組み3：交通事業者の人材確保に対する支援

- 公共交通利用者の減少に加え、運転手の高齢化や人材不足が公共交通の確保・維持に大きな影響を与えています。また、2024年問題により減便が進行する中で公共交通を確保・維持するには人材の確保が重要です。
- 交通事業者の人材確保のための取組みを支援します。



図 運転手の求職喚起
出典：京都市

事業8：市民と連携した公共交通の利用促進事業の展開

取組み1：公共交通の利用促進キャンペーンの実施検討

- 公共交通の利用は主に運転免許を所有していない学生や高齢者の利用が多く、自家用車を自ら運転している生産年齢人口世代の公共交通利用は非常に少ないです。
- 日常的に自家用車等を利用している方が定期的に自家用車から公共交通に転換することで、公共交通は将来に渡って確保・維持される可能性が向上し、逆に利用が少ない公共交通は減便等のサービス縮小となります。
- 現在、運転免許の返納等で公共交通が必要となった際や未来の子どもたちが公共交通を利用し続けられるようにするために、定期的に自家用車から公共交通に転換することがキャンペーンを定期的に行い、キャンペーンを通じて公共交通を「意識する」きっかけの創出や公共交通への運賃収入の増加等となるようなキャンペーン等の取組みを検討します。



図 チラシ 出典：熊本市HP

取組み2：水俣高校の学生と連携した公共交通の情報発信企画

- 運転免許を保有していない高校生にとって、公共交通は重要な移動手段であるにもかかわらず、その利用状況は依然として低い水準にとどまっています。
- 多くの高校生に公共交通を積極的に利用してもらうことを目的に、高校生と連携して「my route」内での特集記事を作成する情報発信企画に取組みます。



図 チラシ（九州MaaS）